

平成 30 年度

足立区青少年委員会

ブロック教育懇談会記録

平成 30 年度 足立区青少年委員会 第一ブロック教育懇親会

開催日	平成 30 年 7 月 7 日 (土)	会場	千寿常東小学校 体育館			
時間	午後 14:30~16:30					
参加者	<p>足立区教育委員会 (青少年課係長) : 久保 文雅 足立区青少年委員会 (会長) : 下川 左智子 (副会長) : 遊馬 正子 講師 : 香葉村 真由美 氏</p> <p>第一ブロック小中学校 校長 / PTA 会長 / 保護者 / 千住おやじの会 会長 千住保育園 園長 / 一般保護者 / 青少年委員会第一ブロック青少年委員 参加者合計 268 名</p>					
会次第	<p>司会進行 小学校第一ブロック研修会担当校 PTA 会長</p> <ol style="list-style-type: none">1. 開会のことば2. 第一ブロック長 挨拶3. 校長・PTA 会長・青少年委員 紹介4. 来賓紹介・挨拶5. 講演6. 校長挨拶7. 閉会のことば					
【講師 香葉村 真由美氏プロフィール】						
<p>子どもたちの真実の物語を全国で伝え続ける元小学校教諭。三重県で行われた大 1 回「あこがれ先生プロジェクト」で講師を務め、その時の話がたくさんの人々に感動を与え、その後全国から講演依頼を受けるようになる。2008 年よりスタートさせた講師活動は 2017 年 7 月末現在、全国 300箇所およそ 3 万人以上の参加者を集めている。</p> <p>著書に『子どもたちの光るこえ』(センジュ出版)。日本メンタルヘルス協会心理学講座卒業。</p>						

講演タイトル：「子どもたちの光るこえ」

「できる」「命」「愛」の3つのキーワードに、教室で実際に起こった子どもたちの体験を講演。

▼ 「きらきら朝礼」：毎朝クラス全員で「はい！」と大きな返事。

「おはようございます」「ありがとうございます」という大切な言葉。

子どもたちが伝えたい夢・メッセージを発表する。

「私はできる」「ぼくはできる」「絶対できる」のまほうの言葉。

子どもたちの自尊心を高め、自分を変えていく。臆病だった子どもが人前で大きな声で発表できるようになる。そんな姿を見たときに、自分を信じることの大切さを痛感する。

▼ 「いのちの授業」：いのちの大切さ。いのちといのちのつながり。たくさんのいのちの共に生きていることの実感。

いのちを愛おしいと感じる想いが新しいいのちのつながりとなり、それを守っていくことを願う。

▼ 「愛をもって生きていく」

：子どもと親のかかわり方。子どもは何があっても親のことを悪くは言わない。そんな子どもの心を見抜くのは難しいが、子どもの話を聞くことはできるはず。自分を大切に想ってくれる大人は両親のほかにもいるということ。愛を知っている人は強く、愛を知っている人はきっと他人も愛することができるはず。

子育てをするうえで家庭でできることは「待つ」「許す」「認める」。

そしてなによりも子どもを「ほめること！」

平成 30 年度 足立区青少年委員会 第二ブロック教育懇談会

開催日	平成 30 年 7 月 17 日（火）		会 場	江南センター
時 間	懇談会 18:30~19:40 懇親会 19:45~21:00			
参加者 (敬称略)	足立区教育委員会青少年課長 渡邊 勇 足立区青少年委員会副会長 高橋 将郎 足立区青少年委員会副会長 松崎 顕治 足立区青少年委員会第 8 ブロック長 嶋田 健一 ①校長②副校長③開かれた学校づくり協議会会长④PTA 会長⑤青少年委員 宮城小学校・①藤井基人②岸伸太郎③清水栄市④加藤真砂美⑤下川佐智子 江南中学校・①宮下みどり②増子誠③竹之内茂樹④風間由紀子⑤田中則聰 江北小学校・①土性知法②矢島洋④斎藤直秀⑤矢口悦道 高野小学校・①武智勇喜②由良隆③中村幸雄④倉橋さとみ⑤伊木恒人 扇小学校・①加納和彦②鹿俣昇③福田健次④有澤通⑤遠藤滋子 江北桜中学校・①保坂朗②細谷健次③今西靖彦④池田初次⑤橋本博子			
会議次第	<p>《 教育懇談会 》</p> <p>司会 田中 則聰</p> <p>1、開会の辞 田中 則聰</p> <p>2、ブロック長挨拶 第 2 ブロック長 伊木 恒人</p> <p>3、足立区青少年委員会会長挨拶 足立区青少年委員会会長 下川 佐智子</p> <p>4、来賓挨拶 足立区教育委員会青少年課長 渡邊 勇 様</p> <p>5、懇談会テーマ『アニメーション鑑賞を通じ子どもの問題を考える』</p> <p>アニメーション鑑賞</p> <p>題名「嫌われ者のラス」「OROKA」</p> <p>監督 YORIYASU 様</p> <p>アニメーター エイイチ 様</p> <p>青少年委員 第 11 ブロック 酒井 廣 様</p> <p>担当校 江南中学校校長 宮下 みどり 様</p> <p>6、お礼 田中 則聰</p> <p>7、閉会の辞</p> <p>《 懇談会 》</p> <p>司会 矢口 悅道</p> <p>1、開会の辞 矢口 悅道</p> <p>2、乾杯 足立区青少年委員会副会長 高橋 将郎 様</p> <p>～ 懇談 ～</p> <p>3、ブロック各校紹介</p> <p>4、中締め 足立区青少年委員会副会長 松崎 顕治 様</p> <p>5、閉会の辞 矢口 悅道</p>			
テーマ	『アニメーション鑑賞を通じ子どもの問題を考える』			

【懇談会記録】

アニメーション鑑賞

題名「嫌われ者のラス」

・ストーリー

人間が捨てた使いかけの洗剤容器とコンビニのビニール袋が油で出来た廃油ボールと引っ付いて海の女神から命を授かった「ラス」何の知識もないラスだが心は優しく、とっても寂しがり屋。しかし、動くたびに海を汚してしまうラスは海の生き物の嫌われ者。

苦悩し、泣いてばかりのラスだが、女神様が身を扮してばらまいた「魔法の粉」がきっかけで、小さな仲間バクたちと海の汚染に立ち向かう。

ラスの身体から出る液体(洗剤)がなくなった時、ラスの最後を迎える。そして、ラスの思いを、海の仲間たちに伝える事が出来た。

・テーマ 環境問題(海洋汚染)を考える

東日本大震災をきっかけに、海の汚染は津波による有機トランスやコンデンサーの流出、災害廃棄物の焼却処理によるダイオキシン類の発生、そして放射線物質による汚染と更に深刻化。しかしこれらは全て化学汚染であり、人間が作ったもの。これらの重大な汚染に際して人間が解決していくかなくてはならないもの。国民には手出しができない状態であるのも確かです。

ここで私たちがもう何も出来ないから…

私たちの汚れなんて比にならないというの
は間違えで、今まで培ってきた「私たちに
できること」これをほったらかしにすると、
ますます地球は汚れていきます。だから、
私たちに今できる海の環境汚染に関して、
あらためて考えさせられる作品でした。



題名「OROKA」

・ストーリー

「もう育てるの無理」飽き性で気が強い母親がたかしを乗せて人気のない場所へ車を走らせた。「もうね、どうしようもないよ、私には無理！ごめんね。」その言葉を最後にたかしを置いてママは去っていった。ひとりぼっちで泣いているたかしはそこで同じような境遇の子供たちと出会う。そこは、「畜生の地」と呼ばれ数人のおじさんたちが数十人の子供の面倒を見ている。けっして裕福とは言えない環境だが子供たちは楽しく暮らしている様にみえた。おじさんたちは「天」と呼ばれる見た目は、すごく怖そうだが話してみると、ぶっきらぼうな口調とは裏腹に心がこもったやさしいおじさんばかりである。

ある時、そこへやさしそうな夫婦が訪れる。夫婦は子供ぬ恵まれず、幸せにするからと言って一番かわいいケンくんを連れて帰った。皆が羨ましがる中、間もなく豪華な車がそこへ到着。しかしそれは子供たちの間で「さらい屋」と呼ばれる子供を強引に連れて行く「身毒／シンドウ」の使いであった。恐ろしい面構えを前に、子供たちは一斉に逃げたが、逃げ遅れたたかしが捕まり車に乗せられ…

とても強引で非常識すぎる展開。しかし、これが動物たちの世界ではどうだろう。その疑問を人と仏のせかいに置き換えたショートムービー。

・テーマ 命の大切さ

【家族の一員となった犬が捨てられる現実】

- * 不妊手術をせずに飼っていたら、子供を産んでしまった。もう子犬は飼えない。
 - * 思うようになつかなくて、かわいくない。
 - * 想像以上にお金がかかる。飼い続けるためのお金が無い。
 - * ペット不可のマンションで飼っていて、管理人から注意を受けた。
 - * こんなに世話が大変だとは知らなかった。
 - * 飼い犬が人を噛んだけがをさせた。
- 実際に大切な家族の一員となった犬を捨てた飼い主側の理由。



【捨てられた犬の行く末を知っていますか？】

- * 自分が捨てた犬は可愛いから、きっと誰か拾ってくれるだろう…

捨てられた全て犬に、新しい飼い主は現れるのか？残念ながら答えは「NO」です。運のよい何頭かは、ボランティア団体の方や、たまたま通りかかった人に保護してもらい、新しい飼い主の元で生活ができるかもしれません。しかし、その犬は数えるほどしかいないのが現実です。ほとんどの犬が野良犬となり、人から嫌がられ、保健所へと連れて行かれます。保健所で新しい飼い主が見つからない場合は「安楽死」という名の殺処分の運命をたどります。

平成30年度 足立区青少年委員会 第3ブロック教育懇談会

開催日	平成30年 7月 3日	会場	武蔵屋
時間	午後7時～午後9時		
参加者	木島、田中、藤田、竹田、丸山、浅野、伊藤、石鍋 各校校長、各校PTA会長		
会議次第			
テーマ	各校の現況と方針の紹介		

【懇談会記録】

【西新井小】

来年度の90周年事業に向けて、PTA役員を増員する等多くの保護者に西新井小に関わってもらえるような活動をしている。また校長先生も7年目を迎え、安定した学校運営が出来ている。伝統を生かしつつ、東京都ICT環境整備重点校によりタブレットを用いた授業も充実し、さらにプログラミング学習等により、子供達の論理的思考力の向上を目指している。

【本木小】

PTAと言うとなかなか大変なイメージがあるが、そのようなイメージを少しでもなくすためにお互いの名前を「さん付け」ではなくニックネームで呼び合い、親しみやすくしている。また子供達には常日頃から人権の大切さを先生方が一体となって教えている。今年は地域と密になって子供達を育てる事にも力を入れていく。

【西一小】

今年はPTA会長も代わり新しい西一小PTAが動き出したばかりだが志を持って西一っ子のために頑張っていこうと思う。その中でPTA会費を値上げすることになり保護者の方々に負担を掛けてしまうがご理解を頂きPTA活動を活発にしていきたいと思う。今年は西一小の近隣の町会は本祭りということもあり、生徒達を積極的に参加させることで地域との交流を深め、ボランティアにも力を入れていこうと思う。

【興本扇学園】

今年からPTAのソフトボール、バレーボール大会にどうしても小さな子供を連れて行かなければならないことを考え、中学からボランティアで10人の学生が小さな子供の面倒を見てくれた。そして大会終了後たくさんの方の保護者の目の前で中学生を褒めてあげることが出来たことで子供達のこれからの中学校生活において大きな糧になったことと思う。これはやはり小中一貫校の強みだと思う。

【寺地小】

今回PTAに加入して頂けない家庭が出てしまったことはとても残念ではあるが、これも時代の流れなのかというところもある。これからPTAに加入して頂けるような魅力あるPTAを目指して行きたいと思う。最近学校にタヌキが出現するといった面白いことがあり子供達だけでなく地域の方々と見守っていければと思う。

【六中】

今年六中はPTA会長も校長も新しくなった。生徒数も250人といった学校だが、地域と密着しながら年に一度の「ひらかれ」主催による祭りも近日開催される予定。六中は本当に地元の子供が地元の小学校を卒業し地元中学校に入学する図式がある。それは地元愛があるからだと考えられる。これからも地元の方々の力を借りて学校を盛り上げていきたい。

【五中】

今年はPTA会長が代わった。会長は地域に対してとても関わりを持っている。そうすることで保護者も地域と関わりを持つことの大切さを知ることが出来る。五中は年々生徒数が少なくなり2クラスになってしまう学年が出てしまったことが残念だが、CSや生徒達が学校をアピールしようという意識を持って頑張って行こうと思う。また近隣の学校とも繋がりを持って活気ある五中を作り上げていきたい。

平成30年度 足立区青少年委員会 第4ブロック教育懇談会

開催日	平成30年7月13日	会場	シルビア梅島店「マーブル」
時間	18:00~19:15		
参加者	足立区 青少年事業係長 久保 文雅 様 青少年委員会 下川佐智子 会長 青少年委員会 高橋 将郎 副会長 青少年委員会 小田川利幸 13ブロック長 政策経営部 子ども貧困対策担当課長 山根 晃 様 第4ブロック小中学校 校長・副校長・PTA会長 開かれた学校づくり協議会会長 第4ブロック青少年委員 10名 (計 54名)		
	1・開会の辞 山本孝志 (司会) 2・主催者挨拶 第4ブロック長 石鍋明光 3・来賓紹介 4・足立区教育委員会 青少年事業係長 久保 文雅 様 挨拶 5・講師紹介、講話 6・質疑応答 7・閉会及び懇親会案内		
テーマ	【足立区の子どもを取り巻く現状と地域と連携して行う子どもの貧困対策】 講師：足立区政策経営部 子ども貧困対策担当課長 山根 晃 様		

【懇談会記録】

足立区は、3年間にわたって大規模な調査をしてきました。これほどの調査と対策を行っている所は、他にないです。

現在、日本の子どもの7人に1人が貧困状態。

根底にある共通の原因「貧困連鎖」を断つには、次代を担う子どもを支援すること、活力にあふれ、進化し続ける足立になる。

○足立区の子どもを取り巻く現状

足立区の18歳未満の生活保護受給者が16年間で、約1,2倍に増加。就学援助率は全国平均2倍以上。

○未来へつなぐ あだちプロジェクト

「子どもの貧困対策実施計画」を策定。

基本理念

① 全ての子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、自分の将来に希望を持てる社会の実現

② 次代の担い手となる子どもたちが「生き抜く力」をもつことで、自分の人生を自ら切り開き、貧

- 困の連鎖に陥らず社会で自立
- ③ 子どもの貧困を経済的な困窮だけで捉えず、社会的孤立や健康上の問題など成育環境全般にわたる複合的な課題を捉え、その解決や予防に取り組む

プロジェクトの3本柱

柱1 教育・学び

学校を「プラットフォーム」に、教育による学力保障や関係機関との連携など学びの環境整備や居場所づくりなど総合的に取り組む。

{施策1} 学力・体験支援

基礎的・基本的学力の定着、大学連携による体験事業など

{施策2} 学びの環境支援

スクールソーシャルワーカーの配置、育英資金貸付事業など

{施策3} 子どもの居場所づくり

居場所を兼ねた学習支援、児童館、放課後子ども教室など

{施策4} キャリア形成支援

高校生キャリア教育、高校中と退学予防など

柱2 健康・生活

○「子どもの健康・生活実態調査」から見えてきたこと

子どもの健康や生活は、少しながら生活困難の影響を受けている。生活困難世帯の保護者に相談相手がいると、子どもの健康リスクが軽減する可能性がある。

子どもが運動習慣・読書習慣を身に着けると、逆境を乗り越える力を培える。子どもが地域活動（近所のお祭り・子ども会・児童館等の教室など）に参加していると、逆境を乗り越える力を培える。

柱3 推進体制の構築

○貧困の連鎖を断つ《子どもたちの「生き抜く力」を育む》

もう一人の大人・もう一つの居場所・地域のつながり

ロールモデル=見本となる大人・好ましい生活習慣・健康な身体（食育推進、むし歯予防）・経験や体験・学習支援・安心できる居場所・他者へのつながり

取り組み事例①

学校で朝ごはんプロジェクト

企業 プロジェクトに必要な財源を寄付

地域 ボランティアが朝食を準備

学校 場所の提供、家庭への声掛け

行政 食育の推進、プロジェクトをサポート

取組み事例②

子ども食堂は、16か所に増えました。

居場所を兼ねた学習支援拠点は4か所で実施しています。

以上

平成30年度 足立区青少年委員会 第5ブロック教育懇談会

開催日	平成30年7月6日(金)	会場	足立区立弘道第一小学校
時間	18:30～19:45		
参加者	第四中学校 高橋校長、吉澤PTA会長、多島青少年委員 第十一中学校 星校長、山口PTA会長、前島青少年委員 足立小学校 篠校長、皆川PTA副会長、吉澤青少年委員 弥生小学校 佐藤校長、佐藤PTA会長、小沼青少年委員 弘道小学校 関根校長、土屋PTA会長、砂田青少年委員 弘道第一小学校 佐々木校長、佐藤PTA会長、佐藤青少年委員 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課 早崎係長 青少年委員会 松崎副会長、吉川第1ブロック長、加藤第10ブロック長 <講師> 矢島伸男 日本即興コメディ協会代表、お笑いコンビ「オシエルズ」 若山克彦 スマイルコミュニケーションアカデミー代表		
会議次第	1. 青少年委員会あいさつ他 2. 講師紹介 3. 講演 矢島伸男 様 4. 質疑応答 5. 懇親会		
テーマ	「コミュニケーション力を考える」		

【懇談会記録】

今年度の教育懇談会は「コミュニケーション力を考える」をテーマに矢島伸男様を講師に迎えて講演を行いました。

・参加者は5ブロックの小中学校6校から校長、PTA会長他、青少年委員他、教育委員会青少年課、総勢22名の皆さんに参加して頂きました。

【内 容】

1. 講師の紹介

2. コミュニケーションについての説明

3. 導入：矢島先生より、出席者からお題を頂いて即興の小噺を披露した。

お題は：七夕、いじめ、孫 即興の小噺は身近な話題をもちいて大変わかりやすく面白かったです。

4. アイスブレイク ※緊張をほぐすための手法

(1) 隣同士2人でじゃんけんをして「あいこ」になるとハイタッチをする

(2) 隣同士でしりとりを行い「ん」が出たらハイタッチをする。

※体が触れ合う事により親近感がわき、知らない同士だと緊張がほぐれる。

(3) 6人グループになり、1～21の番号を順番に言って行く。

誰から順番に言うルールはなく、場の空気を読んで番号をひとりひとり言っていく。

二人以上が同時に番号を言った場合は失敗、ハイタッチをする。

※失敗することが怖くなるゲームで、コミュニケーションは失敗する事がある。このゲームは失敗を認め、失敗・間違いをオープンにする。

5. グループディスカッション

全体を6グループに分けて、最近の成功や失敗、何か課題等を話し合う。

その後、グループのメンバーを入れ替えて各グループで話し合ったことを共有しました。

6. 最終セッション 質疑応答

(1) 子供のいじめについてどう思いますか。

講師より

いじる側といじられる側の信頼関係だと思います。その子が嫌でなければ良いと思います。何を言うのではなく、誰が何を言うのか。ケアが出来ていれば良いと思います。

仲の良い子の中でのコミュニケーションと知らない子の中でのコミュニケーションは違います。サービス精神と勇気をもって他者本位で考えるのが良いと思います。

(2) 子供がふざけている時にどのように注意するか教えて下さい。

講師より

先生に対してふざけている時は怒らない方が良いと思います。その後、子供は「ほらみろ、あの先生はキレただろ」と裏で言っています。

その時は論理武装して淡々と注意した方が良いと思います。

◆今年度の教育懇談会は例年の意見交換中心のプログラムを変えて、講演(研修会)を行いました。

講師の方は、はじめにコミュニケーション理論を黒板いっぱいに書いてスタートしました。実際に始まってみると内容は参加型の研修で企業研修のセオリーに則った形式でした。

出席した皆さんの表情を見ていると、最初はどんな感じか不安な様子でしたが、時間が経過するにつれて盛り上がって行きました。懇親会の中では、大変有意義な研修だったとの声が多く出ました。

また、最後の質疑応答では子供に対するコミュニケーションの極意が学べたと思いました。

◆各校長及びPTAの皆さんからの意見・感想

- ・皆さんのお顔はわかりますが、あの短い時間で、皆さんの違ったお顔が見えてとても参考になった。
- ・PTA ブロック研修会で講演して頂きたいと思いました。
- ・今回の懇談会は今までとは趣向が違い大変良かった。

- ・コミュニケーション力ということで大変参考になった。
- ・参加者同士が身近に感じられるようになった。
- ・今までの懇談会は情報共有の場であったが、今年の研修は楽しく参加でき勉強になった。

◆まとめ 吉澤委員より

今回の5ブロック教育懇談会は、私の在任期間の過去4回とは趣きを変えて講演会で開催した。中高教諭免許を持つお笑い芸人が小中学校長、PTA会長そして青少年委員の教育及び子供の健全育成活動を担っている方々に、どのような話をしてくれるのか興味深々で当日を迎えた。

入りはプロのお笑い芸人による即興小噺で、それがなかなか受けて聴き手の構えも和らいた。

次はグループセッション、一対一で、じゃんけんで負けたら両手を挙げて笑った。何となく相手のこんな面もあるのかを知った。会場の部屋がザワザワ、笑いが交じり、隣と話をしたり、ワイガヤの雰囲気が作られた。“コミュニケーションは絶対に失敗する”を、じゃんけんに負ける事に置き換えて、“失敗を自分で認める。また他者の失敗を受け入れる”というマインドセットを教わった気になった。私を含めた出席者の方々は、なんだ、こんなものかと思ったところが講師 矢島伸雄氏の思う壺であったかまでは知らない。

今後の教育懇談会のテーマ作りに足跡を残した時間だと感じた。

終了後の懇親会では講師との情報交換も盛んに行われ、即興芸を披露してもらい楽しく有意義なひと時を過ごせた。

平成30年度 足立区青少年委員会 第6ブロック教育懇談会

開催日	平成30年7月12日	会場	綾瀬小学校 会議室
時間	18時30分～19時45分		
参加者	講師：足立区立青少年委員会 会長 下川 佐智子 氏 足立区教育委員会青少年課管理調整係長 早崎 直人 氏 足立区青少年委員会 副会長 田中 実 氏 足立区青少年委員会 副会長 高橋 將郎 氏 足立区青少年委員会 第5ブロック長 佐藤 健二 氏 綾瀬小学校・東綾瀬小学校・東加平小学校・東渕江小学校・北三谷小学校 大谷田小学校・長門小学校・東綾瀬中学校・蒲原中学校 【9校の校長・副校長・PTA会長・青少年委員】 計40名		
会議次第	司会・開会 伊藤委員 主催者挨拶 6ブロック長 佐宗 良哉 来賓紹介 伊藤委員 来賓挨拶 足立区教育委員会青少年課管理調整係長 早崎 直人 氏 青少年委員会 副会長 田中 実 氏 講演 足立区立青少年委員会 会長 下川 佐智子 氏 記録 天野倉委員 講評・閉会 大塚委員		
テーマ	青少年委員の役割とは・・・		
[懇談会記録] 青少年制度の始まりは 東京都社会教育議会で、東京都の社会教育委員会に青少年の教育指導者を増やし、充実させようとアドバイスをして青少年委員制度が発足されました。 足立区ではその当時8名の方が委嘱されたそうです。今年で65年を迎え、歴史のある制度です。東京都から足立区へ移管され、そして足立区教育委員会から委嘱されることとなりました。 小学校の通学区域から1名選出、平成14年からは中学校からも1名の方が選出され各学校に1名選出されていることになります。現在小・中学校104校 103名の方が委嘱されていらっしゃいます。 足立区青少年委員会だより「あだち」を見てください。 ここにたくさんの方の写真が載っております。103名なので小さいですが、少しご覧ください。2年に一度改正期の時に集めて発行しております。			

青少年委員とは

1、自主的に青少年教育活動に巡業すること

2、非常勤公務員の受嘱指導者

この二つのことから教育行政の協力をすることで、地域と行政のパイプ役としてこのような位置付けから、地域の連絡調整をする、青少年にかかわり課題に取り組んでいきましょう。

このような事から青少年とはコーディネーターとも言われています。

子供の健やかな成長を願う青少年の活動の中で4つの大事な言葉、子供・家庭・学校・地域 この4つそれぞれの役割を考え、連携を取り持つことが青少年活動の元ではないかと思います。

この役割や連携を実践していくのがコーディネーターではないのかなと思います。

簡単にコーディネーターと言っても簡単なことではないと思います。

そこで、青少年委員会だより「あだち」より

青少年委員の役割を紹介します。

- 協働による学校づくり
- 青少年団体の運営・活動内容等について相談・指導をしています。
- 地域の青少年活動を発展させ、環境整備に努めています。
- 土曜事業に協力
- 放課後子ども教室に協力
- 青少年リーダーを養成し、青少年活動を応援しています。

このようにありますがわかりづらいと思いますので簡単に言いますと開かれた学校づくり協議会・放課後子ども教室・学校・地域で行われる会合にはなるべく参加をすることがスタートだと思います。

お伺いをする、会のメンバーと話すことで、子供たちの成長育成に繋がり、話することで輪が広がると思います。

(毎日毎日お邪魔して嫌われないように気をつけてくださいね。)

教育懇談会は昭和の終わりから始まり第一回が行われております。

この会は情報交換の場、学びの場としてのいい機会だと思いますし、貴重な会でもあります、校長先生・副校長先生・PTA会長の出席をいただいております贅沢な会ですので大事にしていきたいです。

年に一度の会合でも、毎年継続することで信頼関係が作られ役割として認められて本音で話せる場にもなると思います。

合言葉といいますか私が思っていることですが、

「元気に楽しく活動しましょう!!青少年」 と思って楽しく元気に活動していれば周りにも明るい顔が広がると思います。

今日は、私自身も青少年として見つめ直す素敵な会になったと思います。

「元気に楽しく活動しましょう!! 青少年」

ありがとうございました。

平成 30 年度 足立区青少年委員会 第 7 ブロック教育懇談会

開 催 日	平成 30 年 7 月 18 日(水)	会 場	足立区中川北小学校 ランチルーム			
時 間	17 時 ~ 18 時 30 分					
参 加 者	足立区教育委員会 青少年課課長 渡邊 勇 青少年委員会 下川会長・多島副会長・佐宗 6 ブロック長 第 7 ブロック地域 幼小中高 学校長・園長・PTA 会長・協議会会長 民生主任児童委員 スポーツ推進委員 青少年委員 計 45 名					
会議次第	司会 菊地委員 開会の辞 白井委員 青少年委員会 主催ブロック挨拶 山田委員 青少年委員会挨拶 下川会長 教育委員会挨拶 渡邊課長 懇談会 講評 足立区立中川北小学校 笹原学校長 閉会の辞 金子委員					
テ 一 マ	『子どもたちの安心・安全への取組み』					
[懇談会記録] 本年は、グループディスカッション形式で行いました。						
<先生方> *熱中症に注意している。危険指数に応じて、運動・部活動・中休み時間の外遊びの中止 エアコンの効いた教室等で過ごすように指導している。 9 月以降も校外学習で留意していく。 * SNS 問題。学校でも指導しているが、各家庭できちんとルールを作り、時間を決める・ フィルターをかける等対策を考えてもらいたい。 *登下校時。ボランティアでの見守り、特定の人ではなく地域の方々にも目をかけていただきたい。						
<開かれ会長> *見守りあいさつ運動。3・8 運動を続けていく。 *青パト・地域パトロール。 *親が挨拶をしない。 *ポスターを通して、安心・安全・美化運動をしている。 *セーフティー教室をしているが、保護者の参加が少ない。 *駄も学校に任せているようだ。教育は、学校。駄は、家庭。 *愛着障害をなくす活動。 *ヒヤリハット教育を行ってほしい。						

〈P T A会長〉

- *挨拶運動。開かれ・おやじの会と共に、P T Aも参加しています。
- *盆踊りパトロール。近隣の学校のおやじの会・P T Aと連携して巡回しています。
- *防犯カメラの設置。
- *中学生の部活動中心の生活に、夏をのりきるための対策をお願いしたい。
- *中学生の下校時の歩行の態度が心配です。

〈主任児童・スポーツ推進委員〉

- *地域の地区対に所属して子どもたちと関わっています。
- *これからも、開かれ・主任児童・青少年委員と連携して活動を行っていきたいと思っています。
- *自分で身体をしっかり守る。熱中症対策としては、しっかり水分補給をするように子どもたちに伝えていく。

《総評》

色々な立場からの意見が上がり、またこれが子どもたちにとって良い方向へ進んで行くことを願います。

今回の懇談会を通して、課題もまたできたのかなと思いつつ、協力しあい少しづつ解決していくけるよう努力して行きたいと思いました。

文責 木村佳代

平成30年度 足立区青少年委員会 第8ブロック教育懇談会

開催日	平成30年 7月25日	会場	江戸一萬来館綾瀬
時間	18:30~19:15		
参加者	青井中 赤田校長、原元PTA会長、関根委員 栗島中 神山PTA会長、平田委員 東島根中 井原校長、石原PTA会長、速水委員 青井小 近津校長、渡邊PTA会長、小宮委員 栗島小 八木校長、北村PTA会長、濵谷委員 加平小 金泉校長、清野PTA会長、杉村委員 平野小 葛谷校長、木村PTA会長、鈴木委員 東栗原小 高橋校長、樋本PTA会長、鳴田委員 教育委員会青少年課 早崎係長 青少年委員会 下川会長、松崎副会長、遊馬副会長、芦川ブロック長		
会議次第	1.開会の言葉（杉村委員） 2.主催者挨拶（鳴田ブロック長） 3.学校長挨拶（加平小学校金泉校長） 4.講演：下記テーマのとおり 5.聴講者代表挨拶（東島根中井原校長） 6.閉会の言葉（平田委員）		
テーマ	インクルーシブ教育とは ~「特別」から「当たり前」へ～ <small>どうめん みき</small> 講師：道面 美紀 先生		

【懇談会記録】

《道面先生の講演》

通常の学級にも6~8%は、発達障がいなどによる特別な支援を必要とする児童・生徒が在籍すると言われている。すべてを「問題児」という扱いで終わらせるのではなく、二次障がいが出て、非行につながる場合もある。

バリア(障壁)、つまり段・段差・差別などを取り除くことがバリアフリーで、物理的・心理的な障壁の除去、高齢者や障がい者に安全・快適でみんなが使いやすく、多くの人々が使用しやすい製品・環境がユニバーサルデザインと言われている。

インクルーシブとは包括的、包み込む、ということ。「インクルーシブ教育」とは、みんなと一緒に、一人一人に合わせて、障がいのある人もない人も共に学べる環境を作ることであり、教育の「ユニバーサルデザイン」化、つまりどんな子どもたちにも「わかる」教育を行うことである。また、特別支援教育とは、「特別な子ども」を支援する教育では

なく、「特別な支援」を考える教育であり、一人一人の子どもが共に成長できるように、工夫・改善する教育である。

特別な支援を必要とする児童・生徒は、知的障がい≠発達障がい。

知的障がいのある子どもは、学力に支障があり、ゆっくりとした学習を必要とし、一般的なペースにはついて行けない場合が多い。気持ちが穏やかな子供が多く、通常の学級でも目立たぬまま生活できてしまうこともある。発達障がいのある子どもは、コミュニケーションが苦手な場合が多く、通常の学級で問題行動を起こしがちである。傾向として、語彙数が少ない又は多すぎる。適切な言葉の選択が困難。感情表現が苦手。マイナス思考。

「自分ばかり」「自分なんて」と思いがちである。

表現の傾向も、難解な言葉や場にそぐわない言葉を使うことが多く、脈絡のない話や杓子定規な言い方、^{いんぎん}懇懃無礼な言い方や態度をとる。

その結果、相手にうまく伝わらず誤解される。嫌がられたことに気づかず繰り返す。笑われたことをウケた（コミュニケーションが取れている）と勘違い。そして、怒られても理由がわからない。だからやめない、のくり返し。

最終的に、自己肯定感を失って口数が少なくなったり、誤学習を重ね、からかいの対象になったりすることも。これは、不登校になるサインの一つ。不適応行動の理由を理解されないまま登校すると問題児扱いされ、二次障がいにつながる。

「正しく伝える」には、相手に伝わる表現を学ぶ、相手も自分も「心地よい」表現を覚えることが必要。

そのための「具体的な支援」とは

*言えば言うほど伝わらなくなるので、ぶつからないようにする。（「怒り」は伝わるが、「思い」は伝わらない。）

*静かにそばに行って名前を呼ぶ。近寄りすぎず、前から穏やかに。自分に話しかけているのだとわかるようにする。

*シンプルに単指示（1回に1つ）、短指示（短く伝える）。ひとつずつ分けて話をする。

*肯定的に。「～しない」ではなく「～して！」と依頼する。悪い見本は見せないで「〇〇しましょう！」などと言い切るように話す。

そして、「良い行動」を伸ばす。見た瞬間、その場で、客観的事実を具体的に伝え「ほめる」。伸ばしたい部分、望ましい行動、よくできた事柄、他者との自然な関りに注目す

る。また、「減らしたい行動」はスルーし、誤学習を避ける。注目されると嬉しいので悪いことをくり返し、悪循環になる。危険行動はすぐに注意し、一喝する。(長く叱らない。) 質問を繰り返してくる時は「おうむ返し」を逆手にとり、「答える」のではなく、こちらから「質問」を繰り返す。そうすることにより、求めている答えがわかる。

「動きが止まった時」は、指示が多いか、指示が早いためである。矢継ぎ早に質問するとパソコンと同じように「フリーズ」するので待つことが大事。「大人」は指示を出してから2秒待てない(我慢できない)。6~8秒後には「できるはず」と思って気長に待つ。「できない事」はあるけれど、「できない子」はないはず。

個別から小集団へ。特別支援教室では、個別の教材や課題を通して、自分の気持ちを整理し、自分の言葉で伝えられるように練習する。小集団のあそびや活動を通して、コミュニケーションの取り方や他者とのかかわり方を学ぶ。多種多様な経験を積むことで、感情が豊か(楽しい、悔しい、嬉しいなど)になり、自信(満足感、褒められる喜び)がつき、自己肯定感が高まってくる。

「自分」を好きになると「人」も好きになる。周りにいる大人が、よいことが出来た時のキャッチを見逃さずに「すごいね」「すてきだね」「いいね」とほめ上手になることが一番の「支援」。子どもたちの「一番の味方」は「近くで見守ってくれる大人」。
そう、皆さんです！！

《聴講者代表挨拶(東島根中井原校長)》

日々様々な生活の中で、全ての子どもに対する健常な生活基本の部分。特別から当たり前の後、当たり前になったから良いのではなくて、保護者、学校、社会の中で、一人で生きて行ける力をつけてあげる。指示の出し方、接し方。良い勉強になりました。

平成30年度 足立区青少年委員会 第9ブロック教育懇談会

開催日	平成30年 9月 7日	会場	桜花亭（花畠）
時間	18:30~20:30		
参加者	青少年課課長 渡邊課長 青少年委員会下川会長 同松崎副会長・多島副会長・宮崎副会長 同第10ブロック 橋本ブロック長 各校校長・副校長 15名 PTA会長・副会長・役員 18名 開かれた学校づくり協議会会長 6名 青少年委員 8名		
会議次第	講演会 第1部 司会 遠山委員 開会の言葉 遠山委員 ブロック長挨拶 芦川委員 青少年課長挨拶 渡邊課長 青少年委員会会長挨拶 下川会長 来賓紹介 遠山委員 9ブロック活動・役割 森委員 質疑応答		
	第2部 懇親会 司会 中里委員 開会の言葉 中里委員 乾杯 花保中学校 校長 歓談 各校PR・くじ引き 中締め 花畠西小開かれ会長 閉会の言葉 古川委員		

テ　ー　マ	地域との架け橋、青少年の役割
[懇談会記録]	
2部構成で行った。	
第1部	
青少年委員の活動、役割を PowerPoint を使用しながら説明した。	
1. 青少年委員とは	
2. 青少年委員の役割について	
3. 青少年委員会活動	
4. 全体活動について	
5. 第9ブロックの活動について	
6. 個別活動について など	
第2部懇親会	
第1部とは違った雰囲気の中で、和氣あいあいと行われた。	
各学校の PTA 会長、校長、副校長先生も新しく着任された方々もいらっしゃるの	
で、学校紹介で紹介された。	
毎年恒例の各学校の学校自慢もいろいろと工夫され、回を追うごとにバージョンア	
ップし、紹介後のくじ引きもとても盛り上がった。毎回手作り満載の会で、参加	
してくださった方々からは参加させていただいて良かったなどと、声をいただいた。	
そして後片付けまで参加者の方々が手伝ってくださいり、ブロック全体の結束を感じた。今回の懇談会を通して、さらに青少年委員の活動の理解をしていただき、これから	
からの活動がより良いものになると感じた。	



平成30年度 足立区青少年委員会 第10ブロック教育懇談会

開催日	平成30年 7月13日	会場	竹の塚地域学習センター
時間	18時00分～20時30分		
参加者	青少年委員会（田中副会長、多島副会長、松崎副会長、浅香ブロック長） 教育委員会青少年課（渡邊課長）、渕江町会自治会連合会（澤田会長）、 青少年対策竹の塚地区委員会（小島副会長） 渕江小学校、渕江第一小学校、保木間小学校、西保木間小学校、 竹の塚小学校、中島根小学校、渕江中学校、六月中学校、竹の塚中学校 各学校の校長、副校长、PTA会長、開かれた学校づくり協議会会长他 第10ブロック青少年委員（橋本、人見、大西、武田、飯島、吉田（雅）、 小林、芦川、吉田（弓）） 参加者 64名		
会議次第	【第1部】 1. 開会のことば 2. 青少年委員会第10ブロック長挨拶 3. 青少年対策竹の塚地区委員会会長挨拶 副会長 小島千恵子様 4. 渕江町会自治会連合会会長挨拶 澤田 榮介様 5. 足立区青少年課 課長挨拶 渡邊 勇様 6. 青少年委員会会長挨拶 副会長 田中 実様 7. 来賓紹介 8. 議題 ① テーマ「子どもの成長とスポーツの素晴らしさ」 ・講師：浅井えり子氏 ソウルオリンピック女子マラソン日本代表 ② 質疑応答 ③ 講評 竹の塚小学校 校長 小林 浩二様 8. 閉会のことば 吉田（雅）委員		
ブロックテーマ	【第2部・懇親会】 1. 開会のことば 司会 武田 委員 2. 乾杯 中島根小学校 校長 大西 委員 3. 歓談 武井 利依様 4. 中締め 青少年委員 副会長 多島 三好様 5. 閉会のことば 武田 委員		
	「社会教育の充実～地域との連携で絆を深めよう」		

[懇談会記録]

【講演】 「子どもの成長とスポーツの素晴らしさ」

講師：浅井 えり子 氏

◎ 生い立ち

西新井小学校 → 足立第五中学校 → 都立足立高等学校

- ・幼少期 家にいる方が好き。活発な方ではない。
足は速い方ではなく、目立たない子供だった
- ・教育方針 何事にもほどほどで一番をとらなくてよい。
中くらいにいればよかつた
特に秀でるものもなく中学校では帰宅部だった

◎ 陸上

- ・きっかけ 高校入学時、両親に運動部を勧められる。
特に希望はなく、一番最初に仲良くなかった友達に誘われ
陸上部へ入部
- ・陸上部 当時の陸上部方針は足の速い子は短距離、
遅い子は長距離(800 メートル)
気が付くと自分だけが遅く自主トレーニングを行う
荒川河川敷でのトレーニングは当時珍しがられた
(今では普通の光景)
人生最初の挫折が走ることとなる
- ・進学 高校時代に 800 メートル走で自身の目標タイムを
達成できなかつたことが悔やまれ、大学で陸上部へ入部
再度、挑戦し 2 年生で目標タイムを切ることができた

◎ マラソン

- ・大学生時代 女子のトラック競技に長距離種目が増えると同時に
市民マラソンが活発になってくる
3 年在学時初マラソンにチャレンジする
怪我も多い選手時代を過ごす
- ・実業団 才能のある選手とはだれも思ってくれなかつたと思うが

N E Cに入社、陸上部に入部
正しい練習とやる気があればある程度は速くなれる

- ・ソウルオリンピック出場
マラソン向きの走り方に変えていくのに、納得できるまで
10年かかった
まず、ハードな練習が出来るような身体作りに時間をかけた

これまでの経験から
人間の可能性は自分自身が思っているよりも高いところにある
と感じる

◎ 幼少期のスポーツ

- ・ボール競技 小さいボールになるほど、小さい頃から慣れ親しむことが大事
- ・体操・スキージャンプなど
恐怖心のない時期から始めることが大事
- ・長距離スポーツ・マラソン
成長期にハードな練習をしてしまうと成長の妨げになってしまう
マラソンについては18歳以上が望ましい
- ・人間にはのびしろがある
それを無視してしまうと限界がきてしまうのが早い
特に女子の場合、成長に応じた練習をする必要がある

◎ 遊びと練習

- ・しゃがむ かかとをつける練習→可動域を広げることで
けがの防止につながる
- ・スキップ・かけっこ
一人で長い距離を走るより、リレー形式にすると
楽しい練習になる
鬼ごっこなども練習になる

◎ アドバイス

- ・基本ができていないで応用をしてしまうと、身体がこわれてしまうので
注意が必要

- ・可動域と柔軟性は違う→可動域はストッパーをかけた反発力の大きさが変わる
- ・家庭では遊びを中心に過ごしてほしい
身体を動かす遊びがかぞくの思い出にもつながる

最後に

高校時代・・・やればできる

社会人・・・自分からやる

自分の可能性は思っているより高いところにある

いろいろな経験をしていくことで心と身体は育まれていく

平成30年度 足立区青少年委員会 第11ブロック教育懇談会

開催日	平成30年7月5日	会場	足立区立第十四中学校 会議室
時間	17:30~18:30		
参加者	教育委員会 青少年課 課長 渡邊 勇 青少年対策伊興地区委員会 会長 元井一壽 青少年委員会 会長 下川佐智子 副会長 高橋將郎 西新井第二小学校 校長 吉川浩司 PTA会長 山下友美 西伊興小学校 校長 中郡英一 PTA副会長 中村明紀子 PTA副会長 田沼真奈美 栗原北小学校 校長 三宅文夫 PTA会長 本多正道 伊興小学校 校長 井上龍夫 PTA会長 柴 大介 東伊興小学校 校長 山下宗孝 PTA会長 田島 実 第十四中学校 校長 難波浩明 PTA会長 小野貴之 伊興中学校 校長 加藤 明 PTA会長 麻生 勇 副校長 千葉千登勢 西新井中学校 PTA副会長 前澤里美		
会議次第	司会 磯 洋一 委員 開会 司会者 挨拶 青少年委員会 会長 下川佐智子 教育委員会 青少年課長 渡邊 勇 講師 青少年委員 酒井 廣 講評 青少年委員会 副会長 高橋將郎 閉会 佐藤正浩 委員		
テーマ	「子供たちの為に知っておくべき情報社会のリスク」		

[懇談会記録]

酒井委員はIT企業に勤めており、インターネットについては専門職であるため、わかりやすく説明をしていただく。パソコンやスマホを使う際、ネットのさらし・乗っ取り・サイバー攻撃・情報の漏えい等、さまざまなトラブルに繋がってしまう要因を知ることで、危険から回避することができる。子供たちが間違った使い方をしないように大人が気を配り、しっかりと見守っていかなければならない。

平成30年度 足立区青少年委員会 第12ブロック教育懇談会

開催日	平成30年7月14日（土）		会 場	鹿浜いきいき館 多目的室																																			
時 間	16時00分から 17時30分																																						
参加者	足立区教育委員会 青少年課管理調整係長 早崎直人 足立区青少年委員会 会長 下川佐智子 副会長 田中実 第2ブロック長 伊木恒人 第7ブロック長 山田直美																																						
[小学校]	[小学校] <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学校</th> <th style="text-align: center;">校長</th> <th style="text-align: center;">副校長</th> <th style="text-align: center;">PTA会長</th> <th style="text-align: center;">青少年委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿浜第一小</td> <td>木村浩昌</td> <td>各務友二</td> <td>宮本明彦</td> <td>原田 勉</td> </tr> <tr> <td>北鹿浜小</td> <td>宇都宮晴美</td> <td>日高陽子</td> <td>石塚祐二</td> <td>渡邊淳子</td> </tr> <tr> <td>鹿浜西小</td> <td>飯島 淳</td> <td>瀧 満裕</td> <td>金子慎也</td> <td>高橋 進</td> </tr> <tr> <td>鹿浜五色桜小</td> <td>高山直也</td> <td>向山敦子</td> <td>萩原和男</td> <td>横山良和</td> </tr> <tr> <td>皿沼小</td> <td>菅原秀道</td> <td>田子森好房</td> <td>勝田直樹</td> <td>浅香一浩</td> </tr> <tr> <td>新田学園小</td> <td>土肥和久</td> <td>鷺見二朗 田中琢也 八代麻子</td> <td>廣瀬一也</td> <td>倉持智光</td> </tr> </tbody> </table>				学校	校長	副校長	PTA会長	青少年委員	鹿浜第一小	木村浩昌	各務友二	宮本明彦	原田 勉	北鹿浜小	宇都宮晴美	日高陽子	石塚祐二	渡邊淳子	鹿浜西小	飯島 淳	瀧 満裕	金子慎也	高橋 進	鹿浜五色桜小	高山直也	向山敦子	萩原和男	横山良和	皿沼小	菅原秀道	田子森好房	勝田直樹	浅香一浩	新田学園小	土肥和久	鷺見二朗 田中琢也 八代麻子	廣瀬一也	倉持智光
学校	校長	副校長	PTA会長	青少年委員																																			
鹿浜第一小	木村浩昌	各務友二	宮本明彦	原田 勉																																			
北鹿浜小	宇都宮晴美	日高陽子	石塚祐二	渡邊淳子																																			
鹿浜西小	飯島 淳	瀧 満裕	金子慎也	高橋 進																																			
鹿浜五色桜小	高山直也	向山敦子	萩原和男	横山良和																																			
皿沼小	菅原秀道	田子森好房	勝田直樹	浅香一浩																																			
新田学園小	土肥和久	鷺見二朗 田中琢也 八代麻子	廣瀬一也	倉持智光																																			
[中学校] <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学校</th> <th style="text-align: center;">校長</th> <th style="text-align: center;">副校長</th> <th style="text-align: center;">PTA会長</th> <th style="text-align: center;">青少年委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新田学園中</td> <td>土肥和久</td> <td>夏目 隆</td> <td>湯澤和仁</td> <td>諏訪法和</td> </tr> <tr> <td>鹿浜菜の花中</td> <td>勝田敏行</td> <td>大久保隆一</td> <td>鈴木美紀</td> <td>松崎顯治</td> </tr> <tr> <td>加賀中</td> <td>遠藤映悟</td> <td>清野淳子</td> <td>太田安昭</td> <td>船橋由美子</td> </tr> </tbody> </table>				学校	校長	副校長	PTA会長	青少年委員	新田学園中	土肥和久	夏目 隆	湯澤和仁	諏訪法和	鹿浜菜の花中	勝田敏行	大久保隆一	鈴木美紀	松崎顯治	加賀中	遠藤映悟	清野淳子	太田安昭	船橋由美子																
学校	校長	副校長	PTA会長	青少年委員																																			
新田学園中	土肥和久	夏目 隆	湯澤和仁	諏訪法和																																			
鹿浜菜の花中	勝田敏行	大久保隆一	鈴木美紀	松崎顯治																																			
加賀中	遠藤映悟	清野淳子	太田安昭	船橋由美子																																			
〔司会〕足立区青少年委員 諏訪法和 開会の辞 足立区青少年委員 諏訪法和 主催者挨拶 足立区青少年委員 第12ブロック長 浅香一浩 出席者紹介 足立区青少年委員 諏訪法和																																							

	来賓挨拶	足立区教育委員会 青少年課管理調整係長 早崎直人
	会長挨拶	足立区青少年委員会 会長 下川佐智子

会議次第 (続)	進行	足立区青少年委員 足立区青少年委員	横山良和 船橋由美子
	閉会の辞	足立区青少年委員	諏訪法和
テーマ	学力の定着に向けて～小・中学校の基礎学力対策～		

懇談会記録

平成30年度の足立区青少年委員会第12ブロックの教育懇談会は「学力の定着に向けて（小・中学校の基礎学力対策）」をテーマとして開催いたしました。本会の進行は、青少年委員進行担当からの指名により、各校の校長・副校長・PTA会長から、学力定着・基礎学力対策等に係る様々な特色ある取組みを発表していただきました。

学力の定着に向け、挨拶をはじめとする生活習慣の改善、宿題を含む家庭学習の習慣化、子ども達が落ち着いて学習のできる環境づくりのための道徳教育、読書による学習への構えづくりなどが重要である旨、各校の各役職者とも共通した見解がありました。

また、各校の基礎学力対策として、パワーアップタイムと称した朝・昼2回の読書時間の確保、読み取る力を培うための朝学習、弱点を克服するための放課後補充教室やサマースクールの開催など、特色のある具体的な取組みが発表されました。

さらに厳しい意見として、子ども達に物を考える力を培わせる事が重要であり、そのためには、校長・副校長が思いを同じにしてやる気を出す事が、教員へのやる気につながり、結果として良い学校になるとの話もありました。

我々青少年委員としても、地域社会のリーダーとして、子ども達の学力定着に向けて一躍を担う立場にあり、その活動が期待されていることを改めて実感いたしました。

《教育懇談会の様子》

浅香ブロック長の挨拶



早崎係長の挨拶



下川会長の挨拶



来賓の皆さん



司会の諏訪委員



進行担当の横山委員と船橋委員



懇談会の様子



以 上

平成30年度 足立区青少年委員会 第13ブロック教育懇談会

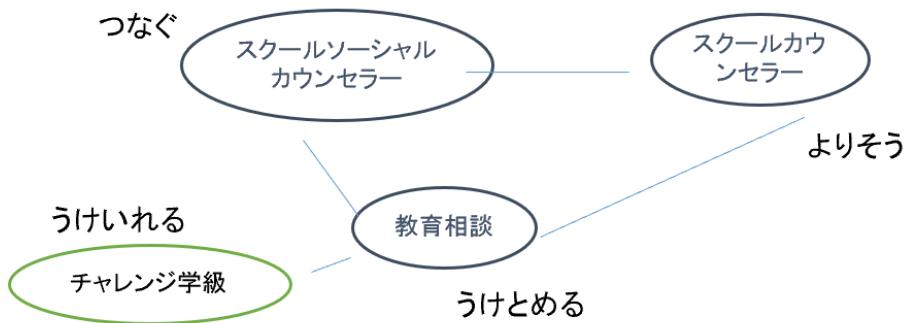
開催日	平成30年7月5日(木)	会場	懇談会 足立区立舍人小学校 懇親会 天府樓
時間	*懇談会 17:00～18:30 *懇親会 19:00～21:00		
参加者	足立区教育委員会こども家庭部 青少年課事業係 係長 久保文雅 様 足立区青少年委員会 副会長 田中 実 様 副会長 遊馬正子 様 第3ブロック長 木島俊江 様 青少年対策舍人地区委員会 会長 小金井 寛 様 舍人地区少年団体協議会 会長 小野田みよ子 様 舍人町会 副会長 新井謙藏 様 入谷町会 会長 市川 真 様 舍人自治会 会長 笠原清子 様 入谷自治会 会長 澤田一雄 様 古千谷本町町会 副会長 那須春芳 様 舍人区民事務所 所長 平野 実 様 足立区立舍人小学校 校長 富岡尚生 副校長 林信広 生活指導主任 阿相文子 PTA会長 依田淳一 書記係 福田逸美 青少年委員 塚本京子 足立区立舍人第一小学校 校長 相原和子 副校長 細田儀広 生活指導主任 赤塚儀行 PTA会長 下平 力 青少年委員 小田川利幸	足立区立足立入谷小学校 校長 吉田益巳 副校長 江幡隆志 生活指導主任 三村哲也 PTA会長代理 新井広美 青少年委員 清野美貴 足立区立古千谷小学校 校長 清澤和人 副校長 石川雅章 生活指導主任 香取麻衣子 開かれた学校づくり協議会 会長 緑川勝彦 PTA会長 添田雅子 青少年委員 緑川勝彦 足立区立入谷中学校 校長 灘山裕子 副校長 小関清人 生活指導主任 山岸正佳 開かれた学校づくり協議会 会長 浦和祥二郎 PTA会長 東直子 青少年委員 丸岡朋子 足立区立入谷南中学校 校長 伊東一 副校長 檜森誠 生活指導主任 大谷忍 開かれた学校づくり協議会 会長 松居篤司 PTA会長 寺嶋政 青少年委員 松田秀樹	
講師	《不登校児童・生徒への支援の充実》 足立区教育委員会子ども家庭部青少年課子ども支援センターげんき 教育相談課 課長 楠山 慶之 様		

ブロックテーマ	『子どもたちを取り巻く環境の変化と現状・取り組みについて』
---------	-------------------------------

○不登校対策事業

- ・ 教育事業相談事業<面接相談・学校支援・教育研修>
 - 教育に関する困りごとに応じて（地区担当制）
 - 申し込みは保護者から直接または学校
 - 相談は専門非常勤（心理職）
- ・ S C（スクールカウンセラー）事業<児童生徒の心理的問題の解決>
 - 週1回区・都のスクールカウンセラーが勤務（2名体制）
 - 子どもからの相談（希望あれば保護者からも対応）
 - 心のケア
- ・ S SW（スクールソーシャルカウンセラー）事業<児童生徒の置かれた環境への働きかけ>
 - 子どもの貧困対策一環
 - 福祉関係

○支援体制



【足立区の不登校対策】

◎不登校とは・・・国の定義で累計30日以上休み生徒

○区の不登校児童の推移

平成20年からの10年の間で倍増

週1回休むと年間30日になる

～増える要因として～

いじめ

学校以外でも勉強する場所がある（保護者の意見）

学校が合わない

親が引っ張ってでも行かない（昔ほど）

○学年別の不登校の児童数

小学校 265人 中学校 813人

小6中1を除いて不登校の半数以上が前年度からの継続者

中1で増えるのは環境の変化・ギャップ 不登校気味から一気に不登校に

～要因～

小学校→家庭にかんするよういんが多い

中学校→本人に関する要因が多い

○不登校対策

- ・お迎え支援・・・サポーターによる支援
- ・別室支援・・・別室での教室復帰支援
- ・チャレンジ学級・・・個別中心の学習支援

欠席が増えたら・・・

初期：電話連絡・家庭訪問

校内：教育相談

S C / S S W：面接や家庭訪問

学校に行けたら・・・

教室に行く→お迎え

教室に行けない→別室

学校に行けない・・・

教育相談

いけないが意欲がある場合はチャレンジ学級

○不登校の新規数を抑制する未然防止策

- ・魅力ある学校づくり

居場所づくり・・・学級や学校を全ての児童生徒にとって落ち着ける場所に

絆づくり・・・日々の授業や行事等において全ての児童生徒が活躍し互いに認め合う

※ 不登校数を減らすには、新たな不登校を抑制する

「未然防止・早期発見」の取り組みが必要不可欠

各校の不登校・SNSの事例や取り組み等

〈舎人小学校〉

不登校について

- ・ 今年度も落ち着いて学習している
- ・ 3名程休みがち・・・5年生 担任が連絡をしている。
- ・ 保健室登校は卒業したので今現在はいません。去年いた生徒は今年は教室に
- ・ 未然防止に力を入れている・・・先生方が協力しあっている

SNSについて

- ・ スマホ所持利用者が多い
- ・ 厳しくチェックしきれていない・・・保護者に指導をお願いしている
- ・ 5/11 5・6年対象に専門の先生の講演会（東京都ファミリーe ルール
- ・ 今後中・低学年にも指導予定

〈舎人第一小学校〉

不登校について

- ・ 7月現在 4年1名 6年2名
- ・ 4年・・・電話で連絡が取れない家庭訪問などをしている。
- ・ 6年・・・保護者との考えが合わない、理解してもらえない（学校に登校させることの）

改善策として

保護者との面談・子どもを認め、次回への見通しをたてる
対応委員会を開いて話し合いを行う

SNSについて

- ・ 校内でSNSノートを作る→家庭ルールを作ってもらう
- ・ 区との情報交換をしている
 - 子どもたちへ・・・ 写真・個人情報を簡単に載せない
 - 保護者へ・・・ 保護者会などで保護者にも意識を持ってもらう。
- ・ 学校以外でも、塾などでもトラブルは広がっている。（高学年チェーンメールなど）

〈足立入谷小学校〉

不登校について

- ・ 欠席の時安否確認がとれない
- ・ 6年生びようきがち
- ・ 5年生 不登校→少しでも来れるようにお迎え支援

- ・ 民生委員にも協力してもらっている（地域での協力）6～7名対象

SNSについて

- ・ 午後8時以降は親へスマホなど返す、渡す。（ブルーライトの残響が1時間残るため）
- ・ ゲーム・SNSは1日1時間
- ・ SNSの勉強を低・中・高すべての学年でしている。
- ・ 写真を載せる子も多いのですぐに消すように指導している
- ・ LINEトラブルあり。悪口にとれるものがあったりする

〈古千谷小学校〉

不登校について

- ・ 不登校気味合わせて3件
- ・ 4年女子→友人トラブル（3年後半）現在チャレンジ学級に登校中。
スクールカウンセラーも利用
- ・ 3・4・5年生姉妹→母親が家を出てしまい不登校気味。現在は戻ってきて
遅刻気味
- ・ 4年男子→原因は不明で登校をしぶっている。今現在支援学級「えがお」を
利用

SNSについて

- ・ 28年度6年生で自分でチェーンメールやリストカットの映像を動画に張り付けて音声
付きで載せる
- 昨年度の6年生 朝起きたらLINE1000件グループから外される。写真載せられた
上記については学年で指導を入れたり個別指導を行う
- ・ 4年男子自宅でいかがわしいサイトを見た。それを友達に話す→学年で指導を行う・フ
ィルターをかけさせた
 - ・ 6月にKDDIのセーフティ教室を実施。

〈入谷南中学校〉

不登校について

- ・ 現在不登校気味・しぶりが2名→1年学習に自信がない。でも来ると教室は行く
- ・ 3年 退学傾向 担任が週1回家庭訪問・手紙を置いてきてるが音沙汰なし
- ・ 数名別室登校（2～3年）カウンセラー・チャレンジ学級利用

SNSについて

- ・ 中学生スマホ所持率80～90% 入学のお祝いで渡されることが多い

- ・ 今小学生の内から S N S トラブル経験済み
- ・ T i k T o k ティックトックを上げる子が何名かいる。
- ・ 7月にスマホ安全教室を開く
- ・ 夏休み中のトラブル喚起に向けて取り組み

〈入谷中学校〉

不登校について

- ・ 不登校については 1 年生は順調
- ・ 2 年生は 2 名 1 名は親と連絡が中々取れない。祖母→息子→学校の形をとっている
- ・ 2 年女子はフリースクールを見学気に入りそちらに登校
- ・ 3 年 2 名 1 名は中々登校しきれていない。スクールカウンセラー利用、家庭訪問で本人の顔をみて話をしている。
- ・ 3 年男子 2 年までま全く来れなかつたが今は、出て来れるようになってきた
- ・ 今後生活指導部会・特別支援委員会にて引き続き見守る

S N S について

- ・ 入中 S N S ルール作りをしている
- ・ 言葉に責任を持つ
- ・ 保護者会にて、保護者の指導を伝える。
- ・ ちょっとした映像や情報で場所が特定されるので気を付けるを言うことを指導。

○ S N S は友達同士だけでなく世界発信？

公開が何処までのものなのかを理解していない子も多い。

総評

○ 友達が不登校のとき子ども同士で迎えに行くことがあった。

家庭環境・精神的なものがある子だった

各々違った家庭環境精神的なものがある学校へ行け行け言うのではなく

何か精神的なものを供することが必要

○ スマホもライナーに乗ると 9 割方が所持、便利なものを便利いでなく、悪用する人もいる

教育根本道徳マナーしっかりと受け継いで日本人良さをプライドを高める教育

地域の子供は地域で育てる